

日米の未来を担う若者たち —全米ジャパンボウル大会—

突然ですが、質問です。以下の問題にいくつ答えられますか。

Q1 次の3つの出来事を、起こった順に並べなさい。A)長野オリンピック B)サンフランシスコ平和条約 C)東海道新幹線開通

Q2 Osamu Tezuka met his hero, a famous American animator, at the 1964 World's Fair in New York. A framed picture of the two still stands in the entry to the Tezuka home. Who was Tezuka's American hero? Answer in English.

Q3 ハローキティの顔にないパーツは何ですか？

これらは、2010年の全米ジャパンボウル大会で出題された問題です。ちなみに、Q1の正解はB、C、Aの順、Q2はWalt Disney、そしてQ3の答えは、口とまゆげです。日本人でも考え込んでしまいそうなこれらの問題に果敢に挑戦するのは、全米の高校で日本語を学び始めて、2年目から4年目の高校生たちです。



全米ジャパン・ボウルとは

「全米ジャパンボウル」とは、ワシントンDC日米協会が主催する、日本語を学ぶ高校生のための全米クイズ大会です。全米各地で日本語を専攻するアメリカ人の高校生が、日本語能力のみならず、日本の文化、習慣、歴史、地理、時事、日米関係などの幅広い分野について、その知識を競います。この大会では、各高校から3名の生徒が1組のチームとなり、約200名の学生が参加します。予選100問の得点と、日本語でのコミュニケーション能力をはかる会話審査の合計点で、それぞれのレベルのトップ3チームが決勝戦に進みます。決勝戦は早押し、個人戦、チーム戦で行われ、最上級レベルのレベル4で優勝した生徒3名と教師には、日本研修旅行

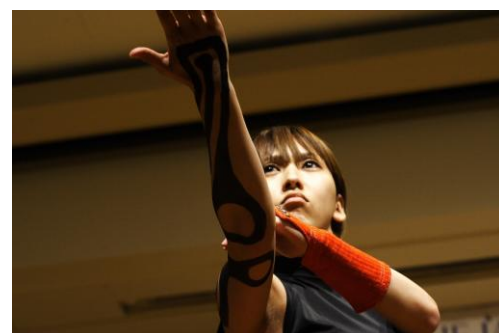


が贈られます。

詳細: <http://www.us-japan.org/dc/japanbowl.php>

アクティビティーと、特別ゲスト

ジャパンプールの審査の合間には、日本の文化を紹介するためのアクティビティーが設けられます。これまで毎年、空手落語、マジックや三味線の演奏、ダンスパフォーマンスのほか、数独ゲームの父、鍛冶氏が出演し、大会を盛り上げています。過去には、習字や着物の着付けワークショップなども行われました。また駐米日本大使や、大使夫人、日系企業の方々も見学され、それぞれのレベルで1位の生徒には、大使からのメダルが贈られます。普段の授業では、日本語の教師としか話す機会がない生徒にとって、日本人のゲストやアーティストとの交流は大変貴重な機会となります。



ジャパンプールの翌日には、同じくワシントン DC 日米協会主催の「さくらまつり」が、ワシントン中心街のペンシルベニア通りにて開催されます。日本文化や日本食、ポップカルチャーなどを紹介する全米最大規模のストリートフェスティバルで、ジャパンプールに参加する生徒のほとんどが、翌日のさくらまつりを心待ちにしています。



このように、ジャパンプールを通して、生徒が日本のさまざまな魅力に触れ、興味を抱き、生徒にとっての日本がより一層身近に、生きた体験になるように心がけています。

ジャパンプールに参加した生徒のその後

数年前にジャパンプールに参加した生徒の1人は、過去の経験を振り返って、以下のようにコメントしています。

“It was the greatest experiences I had in my high school years. I made really good friends and learned a lot from



participating Japan Bowl. It was great motivation and inspiration to study harder and improve my Japanese. Graduating high school made me sad that I could no longer attend Japan Bowl.”

毎年ジャパンプール終了後に行うアンケートでは、参加者の 95%以上が、大学でも日本語を勉強したいと答えています。大学を卒業し、JET プログラム(外国語指導等を行う外国青年招致事業)に参加したり、国務省や日系企業への就職、大学院や博士課程での日本語の研究、日本語教師など、さまざまな道に進みます。



昨年のジャパンプールで優勝した Monta Vista High School のハワード先生は、以下のようにおっしゃっています。

「このごろ、ジャパンプールに参加した卒業生から、日本の大学に留学しているとか、留学する予定とかいう連絡を受け取り、これはジャパンプールのおかげだと考えるようになりました。毎日日本語を教えていても、目に見える成果がなく、時々情熱を失いがちですが、卒業生が日本語を勉強し続けてくれたり、日本の大学に留学してくれたりすると、ああ！日本語を教えていて良かったなと思います。特にジャパンプールで貴重な体験をした生徒たちは、自身をもつことができ、日本へいく準備が他の生徒たちよりできているから、留学を考えるのだと思います。」



また、ジャパンプールの名誉総裁である高円宮妃殿下は、ジャパンプール東京ラウンドを見学なされ、生徒が大学で数学や科学などを専攻することを知って、次のように述べられました。



「ジャパンプールに参加されたあなた方の多くは、日本語だけに興味をおもちなものではありません。今後さまざまな分野に進まれる若い世代が、日本語と、それ以外の専門技術を持つということは、今後の日米関係にとって、大変大きな意味をもっていると思います。」



日本語教育の現状と将来

ジャパン・ボウルが初めて開催された 1992 年、開催の目的の一つとして、アメリカでの日本語教育基準の確立が掲げられました。20 年前の当時、アメリカの高校で日本語は真新しい科目であり、日本語教育の基準がほとんど存在していませんでした。その後、各地で日本語教師会が次々に設立され、また日本語の AP テスト（高校 4 年生で各科目のテストを受けて合格すると、進学先の大学で単位として認可される。）も 2007 年より開始されるなど、外国語としての日本語教育は日々、目覚ましい発展を遂げました。しかしながら昨今、教育委員会による予算の削減や、ビジネス社会での日本語習得に対する必要性の低下、中国語の台頭などに伴い、全米での日本語プログラム数は、縮小する傾向にあります。

このような変化の中で、現在ジャパン・ボウルが目指すのは、アメリカの高等教育レベルの初・中級日本語学習者に焦点を置き、彼らが日頃の日本語学習をより楽しく、そして更に日本に対する興味をもってもらえるように、より多くの機会を提供し続けていくことです。

次回のジャパンボウル大会

来年の第 20 回全米ジャパンボウル大会は、2012 年 4 月 12 日と 13 日に、ナショナル 4H センター(7100 Connecticut Ave. Chevy Chase, Maryland, 20815)にて開催されます。

神尾 りさ

Risa Kamio

The Japan-America Society of Washington DC

1819 L Street NW 1B Level

Washington DC 20036

Phone: 202-833-2210

Email: rokayama@us-japan.org